



発行 2009年7月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

URL: http://www.hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

.....
ハンザキ研をめぐるスター⑨

イシガメ

イシガメも旨いそうである。実際に食べたことが無いので断言は出来ないが、揖保川の主から聞かされた。彼は“痔”に効くのでお前は食うべきだと強く勧めてくれたが、日本特産のカメを食う気にはなれなかったのである。と言ってもスッポンは広く食用に養殖もされているので抵抗なく食っている。同じカメの仲間なので、同じような味なのだろうと思っている。スッポンは旨いのでイシガメも旨いということになるのかもしれないが、そんなことを言うと外来動物としてはびこっているアカミミガメも旨いということになる。名古屋の動植物専門学校生たちは「外来生物を食べる会」を毎年のように行っているそうであるが、さすがに躊躇があったもののアカミミも旨かったそうである。結局は人間の方の思い込みの問題なのであろう。“食”へのベルトコンベアーが出来ればいいのだ。



校庭で発見されたイシガメの1・2才の幼体
(直甲長 40・43・50 ㎝)

ところで、イシガメの孵化直後の生態は良く分かっていなかったのですが、今年のハンザキ・トラップに0歳の子亀が入ったことは当ニュースNo.33の日記に簡単に報告しました。そして、今年24日には校庭の水溜りに昨年生まれの子亀が見つかりました。更に、校庭に作ったピオトープ山で遊んでいた孫が2歳?の子亀を発見したのです。校庭の花壇に穴を掘って産卵していたことは、当ニュースNo.6に書きました。川から10m程の高さがある校庭で産卵し孵化し、数年も過ごすことがあると言う事が分かったのです。いたずら盛りの小学4年生のお手柄でした。



写真1 保護センターでのNHKのセッティング



写真2 朝来市立生野小学校5年生の自然学校



写真3 大サンショの木



写真4 雑草の中で可憐なカワラナデシコ



写真5 ハンザキの死亡状況



写真6 巣穴から頭だけ出しているは生死は分からないが...

保護飼育中のハンザキの滅失

生野ダムのすぐ下流の竹原野の工事現場から事前に救出されたハンザキの数は88個体である。2007年11月からの飼育で、昨年の7月に1個体の死亡があったのですが、当NPO法人が飼育を受託した2008年9月からは死亡はなかったのです。それが、事もあろうに2匹も同じ日に死体となったのです。エンビ管の半割りの巣穴の中から頭だけ出して口から内臓がガスで押し出されていて気づきました。フックで引き上げようとしたが出ないので巣ごと引き上げました。一連の巣に入りかけているように見えた個体も一緒に上がってきて出ようとしません。おかしいなと思って触れてみるとダランとしていて死んでいました。尾部だけ出しているので引っ張ってみると出ません。頭が中でつかかえているようで力を入れて引き出しました。

最初に見つけた死体は腐敗してガスが充満し巢内でギュウギュウ詰めに なっていましたが2匹目は新鮮で生きているような体表です。直径10mmのパイプは小さすぎたのかもしれませんが、入れたものが出れなくなるのは理解しがたい所です。腐敗していた方は全長775mmで死因は分かりませんが、全長700mmの個体の頭部が引っかかって溺死していたようですので、より大きい個体であり、原因は同じことかもしれません。入る時には後肢で押し込んで無理やり入ったものの、底板のエンビが滑って前肢が使えず出れなくなったのかもしれない。想定外の事故でしたが大きな反省点を示してくれました。

.....
やはり野に置け山野草！！

先日、ササユリを10本ほど盗掘していたマニアが捕まりました。ハンザキ研周辺は兵庫県立朝来群山自然公園になっていますが、知人に聞いて取りに来たそうです。山野草ブームとかで、自然を荒らしまわるマニアの存在は困ったもので、野生のランの仲間は盗掘によって絶滅危惧種になってしまったものがほとんどだそうです。

ところで、ハンザキ研の校庭では今年も地域の方がボランティアで草刈りをしていただきました。本当は草ぼうぼうにしておきたいのですが、地元の方にとっては見るに忍びないと言うことで、昨年からは校舎の北側だけは雑草の聖地として残していただくことになりました。とはいえ、校庭の片隅には雑草の中にカワラナデシコの花が纏まって咲いているところがあります。以前にカワラナデシコの花壇を見ましたが一面にピンクの花が咲いているだけで特段の感慨を覚えることもありませんでした。

しかし、校庭の雑草の中で雑草に茎を支えられ可憐に咲いている光景は素晴らしいものです。刈り払われないように目印を付けて残していただきました。校庭一面にあったネジバナは雑草と一緒に消えましたが、背丈の低いネジバナは草刈りによって生き延びているようです。また来年には小さな花を再び咲かせてくれるでしょう。野草はやはり野に置けですね。

あんこうまつりへの出展・出店

研究員 池上 優一

オオサンショウウオの地方名や古代名の調査を進める過程で、岡山県の北東部の旧勝北郡勝田町（現美作市勝田支所管内で岡山県三大温泉の湯郷温泉のある旧美作町に北接）の夏祭り「あんこうまつり」があるのを知りました。これがきっかけで、岡山県北部の美作地方におけるオオサンショウウオの地方名、“あんこう”と“ハンザキ(ケ)”の分布聞き取り調査を行って、当法人の会誌「あんこう」第2号に掲載しました。

このお祭りは、今から17年前、地域を特徴付けるイベントとするために、町の長老の方々が、旧勝田町を流れる梶並川（一級河川吉井川の二次支川）上流域に生息する特別天然記念物のオオサンショウウオ（この地域で“あんこう”という）にちなんで命名して始められたお祭りということでした。さらに、いろいろとお話を伺う過程で、農林業中心のさびれゆく町の活性化を目指して始めたものの、若者を中心に、“あんこう”そのものの意味を理解している人は少なく、お祭りの単なる名称として認識されているに過ぎないこと、行政主体から商工会（勝田支所）主体に移行したこと、お祭りそのものもそろそろ転換期にさしかかっていることなどを聞きました。

我々NPO法人日本ハンザキ研究所の目的は、オオサンショウウオに係る調査・研究以外にオオサンショウウオの保護保全にかかわる普及啓発や交流があります。さらに、活動拠点のある兵庫県朝来市生野町黒川でも、“あんこう”と呼んでいることから、「あんこうミュージアムセンター」を整備し、将来の公開を目指して、地域と協働で進めているところでもあります。さらに、施設の維持管理及び運営の一助となるように、地域のコミュニティービジネスの支援も行っております。

そのような背景から、お祭りを盛り上げるということと、生野町や黒川地区の“あんこうグッズ”を販売するという目的により、お祭りに参加することとしました。

その後、半年かけて話を煮詰めていく過程で、“あんこう”のことをもっと知ってもらえるように、オオサンショウウオの生態写真のパネル展示を行うことも具体化し、お祭り会場に、あんこう展示パネルコーナーとあんこうグッズ販売コーナーの二張りのテントを借り受けることとなりました。

我々も、初めて参加するお祭りであり、どのような嗜好をこらしたのか判断がつかないままでしたが、“あんこう”と名がつけば、何でも飛びついてきてくれるであろうと、淡い期待を抱いたまま、お祭りに参加したのでした。

パネル展示には、専門的な説明のできる二名の研究員についてもらい、あんこうグッズは10種類以上のものを揃えて販売担当も含め、総勢9名が参加しました。

その結果、パネル展示には約60組100名程度の方が、見学と説明を聞いてくれましたが、あんこうグッズに対する反応は、驚くほど少ない状況でした。

“あんこう”という同じ地方名に引かれ、主催者の主旨と一致する部分で、“あんこう”の広報とグッズ販売等々を試みた第1回目の参加は、大成功とは言えない結果に終わったようですが、あんこうパネル展示に足を運んで下さり、熱心にオオサンショウウオの生態説明に耳を傾けていただいた方が、約100名おられたということは、“あんこう”の意味や

お祭りとの関係を知っていただく上で、それはそれなりに成果があったと解釈しています。

また、当初は、豊岡市のオオサンショウウオ着ぐるみ「オーちゃん」が会場を廻り、話題を振りまく企画もあったのですが、豊岡市の了解が得られず、実現しませんでした。主催者としては、NPO 法人日本ハンザキ研究所に“あんこう”の宣伝効果を期待されたのかもしれませんが、我々のほうがパネル展示とグッズ販売の二兎を追ったような中途半端な結果となったような気もしており、このことについては大なる反省に値するものかもしれません。

これらの結果と反省を踏まえ、来年も企画に参加する機会が得られるならば、“あんこう”をモチーフにしたお祭りの波及効果という点で、主催の人々の目的が達成できていない部分において、我々ももう少しいろいろな工夫をこらした企画を展開する必要があると感じています。それも継続的に行う必要があるように思えます。

特にお祭りと無関係になっている“あんこう”の意味と地域における存在価値の啓発、すなわち我が国の特別天然記念物であり、河川生態系の頂点に位置し自然の豊かさのシンボルとして、注目しかつ大切にしていく対象であるということをもっと知っていただくという観点も重要であるように思えます。また、グッズ販売については、せっかく“あんこう”という名がついているので、その特色を生かして、安価で手軽なグッズの開発に力を入れて、オオサンショウウオ“あんこう”の知名度を上げることに貢献できるように工夫すべきと考えています。

岡山県真庭市湯原町では、毎年8月7・8日に開催される「はんざき祭り」が有名で、はんざきがプリントされた浴衣姿で、大きな雌雄のはんざきの山車を引くというイベントが観光名物として定着しています。その他、あんこうやはんざきで町おこし村おこしを目指している地域もあるようですが、オオサンショウウオが夜行性のため人目につきにくいというハンディーの克服が必要です。このような地域に対して、日本ハンザキ研究所の存在と活動の一端を少しでも多くの人に知っていただくためにも、今後もこのようなイベントへの参加を考えていきたいと思えます。

フィナーレを飾って、すぐ目の前で打ち上げられる花火の豪快な爆発音と繊細な色合いの美しさが、燦ぶる気持ちを一時的に吹っ飛ばしてくれたのでした。



あんこうまつりの会場門



パネル展示コーナー(右)とグッズ販売コーナー(左)

ハンザキ研日誌

2009 年 7 月

- 1 日 仮設トイレへの通路整備完了
- 2 日 朝来市立生野小学校 5 年生 36 名が自然学校で見学に
昨日解禁の初物の黒川アユ受贈
- 3 日 国交省豊岡河川国道事務所 2 名、ウエスコ 2 名来所、出石川のハンザキの件で
- 5 日 ヤマセミのバトル、当ニュースNo.16 でお知らせしたヤマセミの片棒の死以来 1 羽
で淋しかったが、2 羽 (新ペア?) の侵入があり三角関係発生! 結果は?
- 6 日 兵庫県豊岡土木事務所、今年度の出石川の調査の件で 2 名来所
- 11 日 NPO 事務局会議 6 名
カモガワ・ハンザキ 8 個体、田口研究員他搬入、内 2 は幼生
- 14 日 ハンザキ月例健康診断 (滋賀県立大学 (院) 馬場 孝さん他)
NHK 撮影のためのセッティング、アース建設と
- 15 日 キノコ観察会のための予備調査、横山・宇那木両先生と
- 17 日 キッズ・ラボの実行委員会
- 18 日 岡山県勝田町“あんこうまつり”へ出展・出店参加
- 19 日 18~21 時落雷停電
転居の方などからショーケース 3 台受贈
ミニ・ホールに 70 席確保
- 21 日 NPO の会計・黒田哲郎さんと理事・竹村真澄さん婚約、おめでとう!
- 23 日 保護中のハンザキ 2 個体減失、隠れ家の半切りエンビ・パイプに詰まった??
- 24 日 校庭の水溜りで昨年生まれのイシガメ 1 個体発見
- 26 日 神戸の小学生が「冷凍のカラスはどうなったのか?」と聞く。昨年も見学に来て
いて、我が孫が「じいちゃんの食料」と説明したらしい。大変なショックを与
えていたようだ。
- 28 日 GS-286 調査終了 (6 月 30 日~)
- 29 日 兵庫県文化財保護審議会
- 31 日 GS-287 調査開始 (~8 月 22 日)

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

“じいちゃんの食料” 事件には参った。私がどこかで作業をしている時に見学者が来ると孫が案内して説明しているようだが、どんなことを言っているのか心配になってくる。それにしても、1 年前のことを覚えていて質問してくるとは強烈なショックを受けたのではないかと思う。カラスをバリバリと食う奇人変人と思われていたようであるが、柿木研究員は旨かったと言っている。